

	会派視察チーム B (池田、藤原、川原田、人見) 視察報告 # 1
日時	平成 27 年 8 月 5 日 (水) 10:50~12:20
場所	高松市 高松国際ピアノコンクール組織委員会事務局 事務所

### 1. 目的

神戸では、神戸国際フルートコンクールの開催について、市民への浸透など、課題があるとされ、準備予算が見送られている。会派では、存続を基本に検討してもらいたい旨の要望を付記し、予算を承認している。民間で運営されている高松国際ピアノコンクールについて、運営の方法や市民への広報・還元について調査を行う。

### 2. 面会者

高松国際ピアノコンクール組織委員会 事務局長 佃昌道氏 (高松大学学長 教授)  
 // 事務局次長 佐々木 啓隆氏

### 3. 調査内容

- ・高松国際ピアノコンクールのきっかけは、高松に新しくサンポートホールができたこと。何か企画したいということから始まった。
- ・2006年に始まり、2年の準備期間を経てスタートした。
- ・当初、行政は相手にしてくれなかったが、今は、助成も得ている。
- ・民間で有志を募って開催した。事業予算は、1億2000万円~3000万円 (当初の助成は、県300万円、市200万円)
- ・高松市の主な企業に参加、出資してもらっている。(四国電力、百十四銀行、帝國製薬、NTTDocomo、香川証券、資生堂、JR 四国、など)
- ・資生堂の会長が高松ご出身で、メセナ協議会として活動する中心に。寄付を募ってくれた。
- ・第1回目のメセナ協議会(?)の事務局を高松大学においた。第2回目は、広告会社ダイコーに3回目からは、現事務所に移った。
- ・百十四銀行のOBがボランティアで事務を担当している。事務員は、5日+3日の2名。
- ・第3回目は、県が2000万円市が2000万円の助成金となった。
- ・有名な浜松国際ピアノコンクールは、4億円くらい経費が掛かっていると聞く。
- ・開催期間は1か月くらい。
- ・運営費 会場運営費 (5000万円~6000万円) アフターフォロー (1000万円) ランニングコスト (4000万円) 予備費 (2000万円)
- ・アフターフォローは、優勝者の凱旋公演のコンサートの経費
- ・応募してきた人については、選考は、DVD 審査で選考している。
- ・審査員は、ポーランドやイタリアの著名な審査員。
- ・ヨーロッパでも、凱旋コンサートを実施する。
- ・中国や韓国でも実施している。
- ・1次審査で選考に落ちた人も、その後、ホームステイができるようになっている。
- ・ショパンコンクールの審査を担当されている審査員の先生に来てもらっている。
- ・審査委員の半分以上は外国人。
- ・優勝者のコンサートは、今までに5, 6回は実施。小さいもの含めると10回以上。
- ・運営委員会の会議は、年に4, 5回開催。
- ・黒田先生と言われる先生が、高松のピアノ文化を高めたいと、ロシアのピアノ教育を取り入れた。

- ・ピアノの普及率は、奈良市が1位、2位が高松市。
- ・瀬戸内国際芸術祭のアートとの抱き合わせも検討。こちらは3年に1回。
- ・高松には、3つ星ホテルがないので、他都市とのジョイントも考えられるかもしれない。
- ・前夜のパーティは、質素な形式。ホールで実施している。
- ・チケット収入は700万円くらいの予算でみていて、実際は500万円くらい。
- ・ファツィオリというピアノメーカーがピアノを提供したいと提供を受け、評判も良かったので、以降、毎回提供を受ける。
- ・堤俊作先生（第1回目の音楽監督）が、若い作曲家も育てたいと、課題曲を毎回、若い作曲家に作曲してもらっている。高松の市内を案内し、イメージで作曲。
- ・#1は屋島 #2は栗林 #3は瀬戸内海
- ・国際連盟に加入したため、年齢要件を40才から35才に下げた。



会場に使われるサンポートホール高松の前で



高松国際ピアノコンクール組織委員会事務局にて